

## 「安全マップ」を活用し、学校安全の推進を図る小中一貫した取組について

### 【取組の目的】

学校安全に係る組織的な取組を一層充実させるために、交通安全や防犯の取組についてパートナー校間で連携し、児童生徒、保護者、地域住民・企業を参加対象とする地域の実情に根ざした啓発活動を試行的に行い、その成果を全市に普及する。

### 【対象】

小中一貫した教育のパートナー校である資生館小学校と中島中学校

### 【取組の方法】

小学校で作成済みの「安全マップ」を活用し、中学校区版に更新する作業を両校の児童生徒、保護者等が連携して行い、出来上がった「安全マップ」を地域のまちづくりセンター、町内会、お店等に周知を図ることで、地域ぐるみの安全意識向上につなげる。

### 【中学校区版の安全マップ作成の流れ】

#### □資生館小学校

- 1 PTAで作成した「安全マップ」を、スクールゾーン実行委員会内で更新等がないかを確認。構成メンバーは、学校、PTA役員、町内会、警察、区役所の担当者。防犯や交通安全に係る危険箇所について情報共有し安全マップを更新した。
- 2 作成・更新した「安全マップ」を一週間程度、高学年のワークスペースに掲示し、色分けしたシールでマップ上に印を付ける作業を通じて、子どもの視点で防犯、交通安全に係る危険箇所を見直し、家庭配布用の「安全マップ」を完成させた。
- 3 完成した「安全マップ」のデータを中島中学校に送付した。

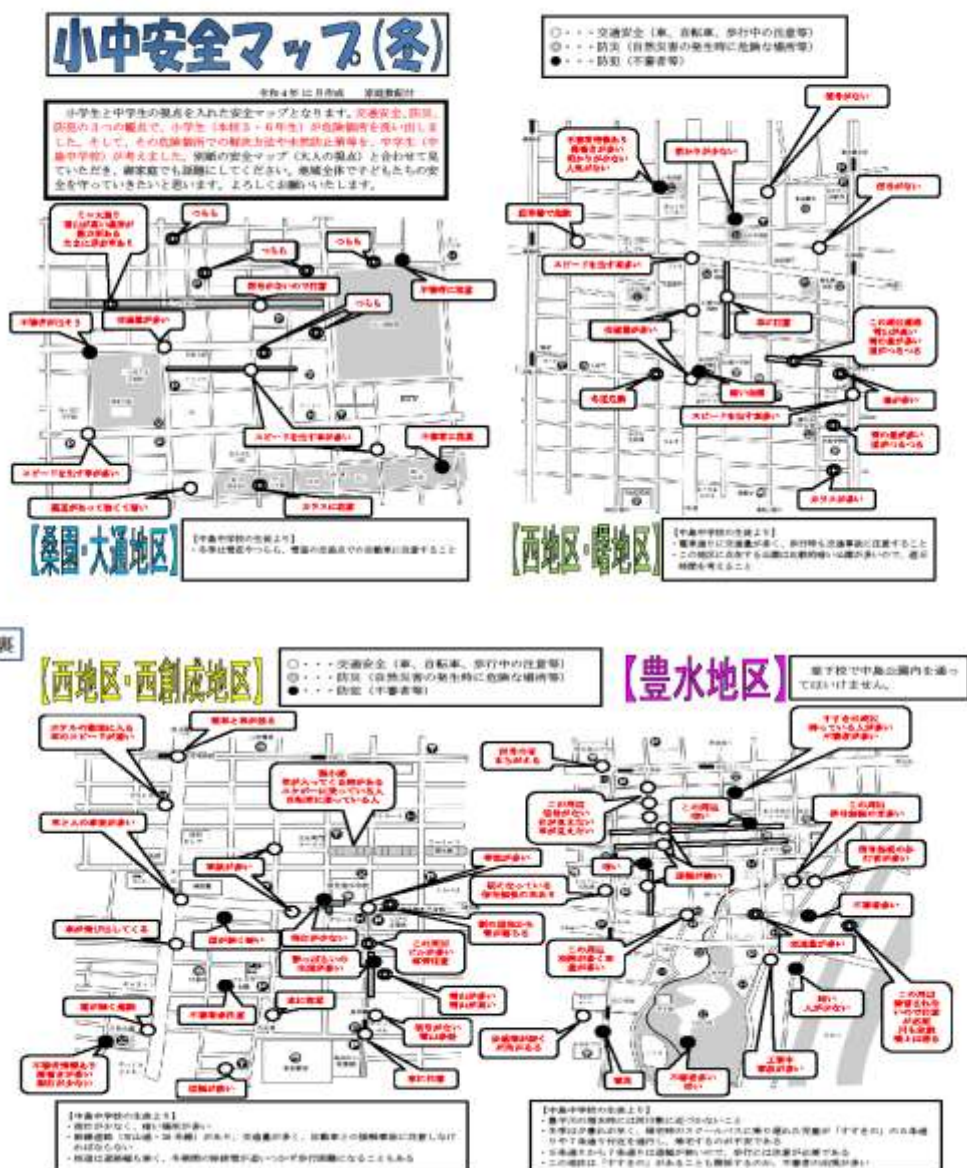


#### □中島中学校

- 1 小学校で作成した「安全マップ」を元に生徒会が中心となって中学校区版に更新する作業を行った。Chromebookで地図アプリを活用しながら季節特有の危険性も踏まえて、普段の校区の様子や起こり得る危険を想像し冬季版「安全マップ」を作成した。  
これに併せて危険を回避するための対応策や未然防止策についても検討した。
- 2 中学校で更新した冬季版「安全マップ」のデータを資生館小学校へ戻し、冬季休業前に全児童に配布し、家庭で活用できるようにした。中学校でも同様に配布した。
- 3 完成した冬季版「安全マップ」については、校区内の町づくりセンター等に作成の趣旨を説明した上で、配布し地域への啓発を行った。



4 今後は、同一の手順で夏季版の「安全マップ」の見直し、作成を行う予定であるが、保護者等の大人の視点から見直す機会も取り入れるなどの工夫を加え、次年度も小中が連携して活動していく。



### 【活動を通して】

小学校では、時期を決めて高学年のワークスペースに掲示し、子どもがシールを貼る活動を通して、自ら危険箇所を「安全マップ」に加えたことにより、改めて危険箇所を認識することができ、安全への意識が高まった。

中学校では、生徒会が中心となって、新たな危険箇所を追加し、危険を回避するための方法や未然防止策についても「安全マップ」に反映させることができた。パートナー校の小学校と中学校が連携して作成した「安全マップ」は、児童生徒を介して家庭に配布され、中学校の生徒会が地域へも配布したことにより、家庭と地域の安全意識向上のきっかけとなった。

小学校のPTA役員からは、子どもが自ら取り組んだことにより、自分の命を守るのは自分たち自身であるという認識が高まったとの声が聞かれた。

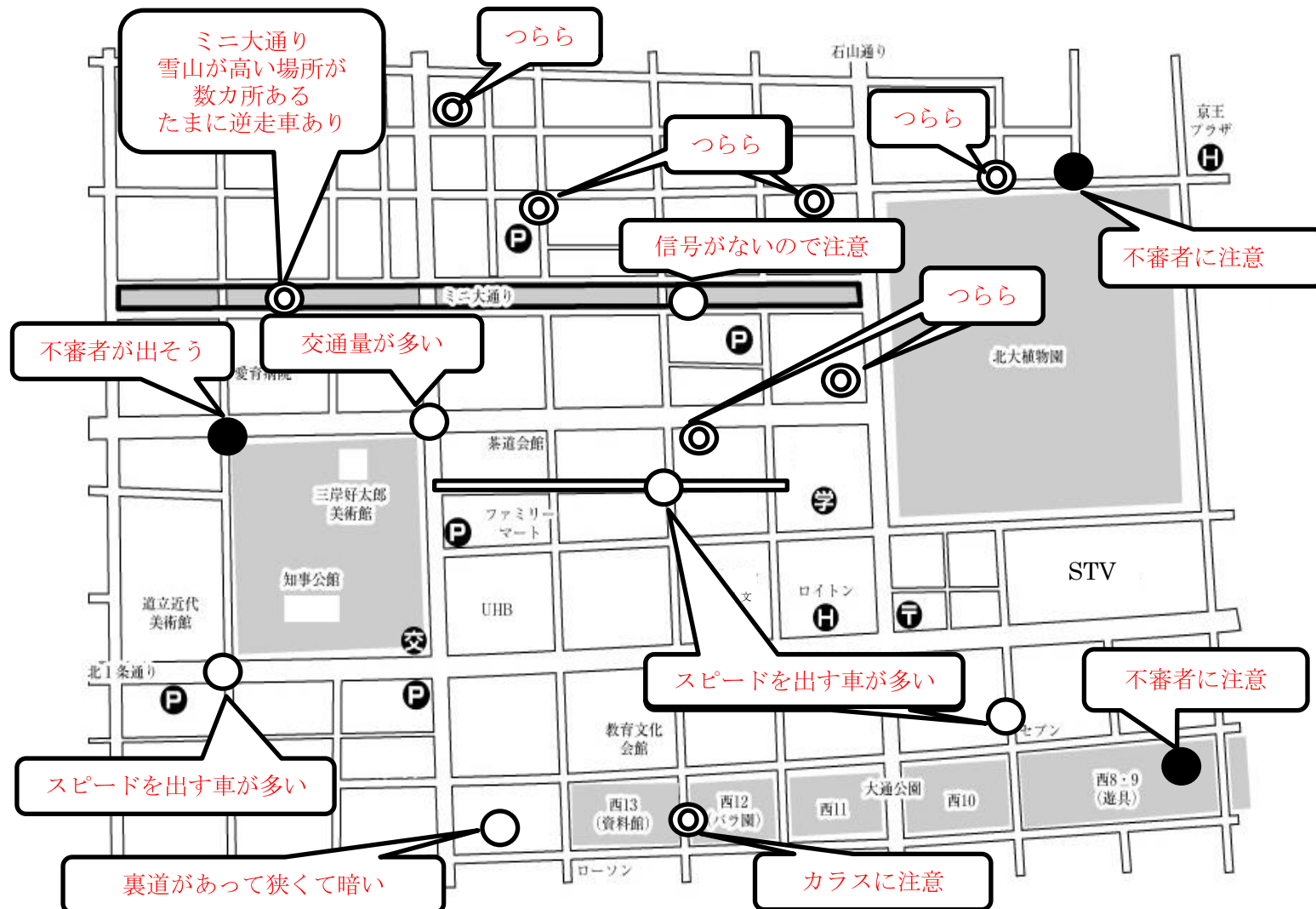
このような取組自体を家庭や地域に広く紹介し、子どもが主体的に作成した「安全マップ」を地域社会で共有することで地域ぐるみで安全を確保する意識の向上と体制づくりにつながる効果が期待できる。



# 小中安全マップ(冬)

令和4年12月作成 家庭数配付

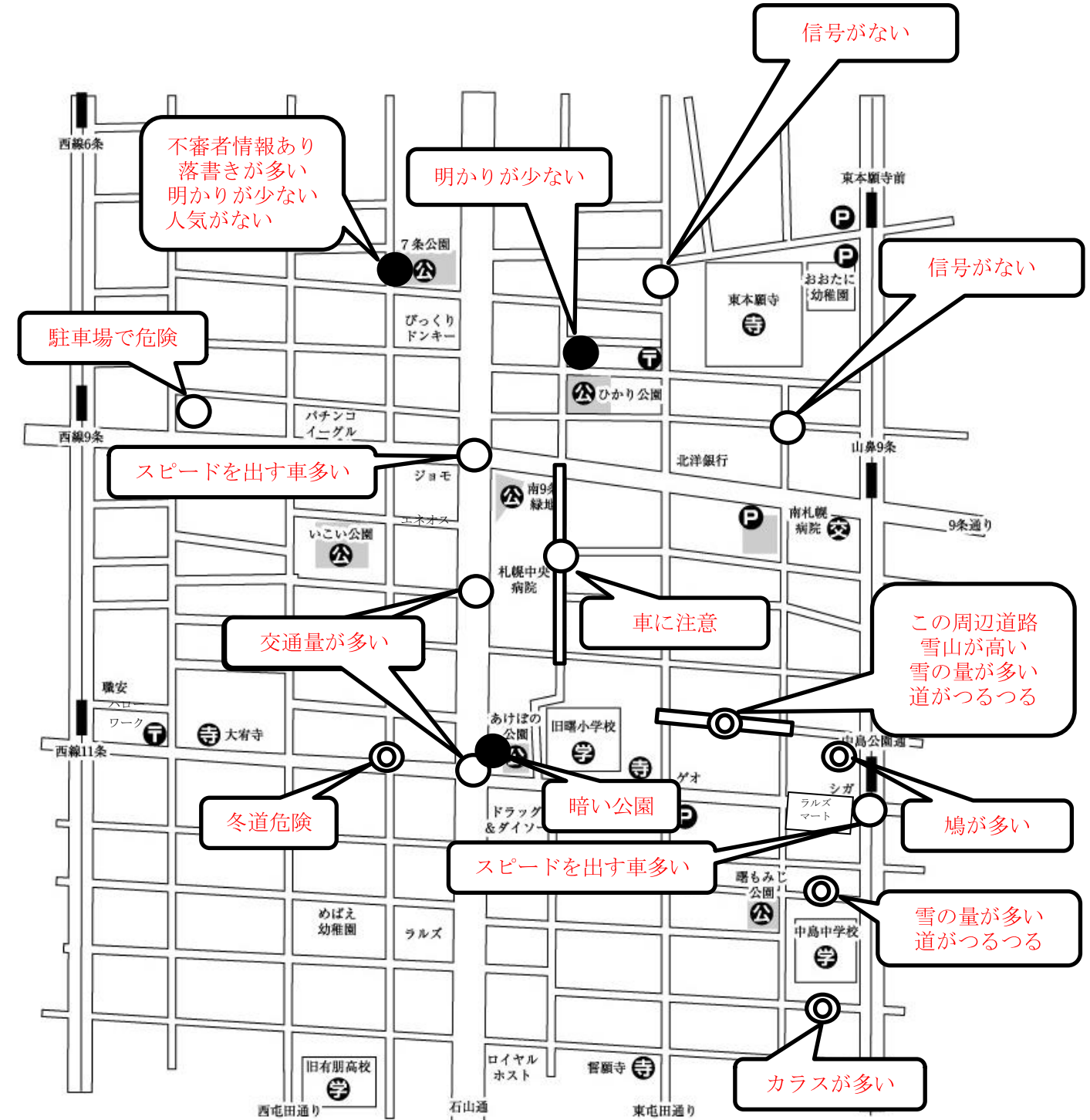
小学生と中学生の視点を入れた安全マップとなります。交通安全、防災、防犯の3つの観点で、小学生(本校5・6年生)が危険個所を洗い出しました。そして、その危険個所での解決方法や未然防止策等を、中学生(中島中学校)が考えました。別紙の安全マップ(大人の視点)と合わせて見ていただき、御家庭でも話題にしてください。地域全体で子どもたちの安全を守っていききたいと思います。よろしくお願いいたします。



## 【桑園・大通地区】

【中島中学校の生徒より】  
・冬季は雪庇やつらら、雪道の交差点での自動車に注意すること

- ・・・交通安全(車、自転車、歩行中の注意等)
- ◎・・・防災(自然災害の発生時に危険な場所等)
- ・・・防犯(不審者等)



## 【西地区・曙地区】

【中島中学校の生徒より】  
・電車通りに交通量が多く、歩行時も交通事故に注意すること  
・この地区に点在する公園は比較的暗い公園が多いので、遊ぶ時間を考えること